



『108歳の現役理容師おばあちゃん

ごきげん暮らしの知恵袋』

箱石シツイ 著

宝島社 刊

定価 1,430円（本体 1,300円＋税）

以前から関心を寄せていた超高齢の理容師さん。メディアでもしばしば紹介されてきたから、知る人も少なくないのでは。その半生が一冊の本になった。表題の通り「108歳の現役理容師おばあちゃん」箱石シツイさんの物語だ。「シツイ」という珍しい名前の由来は、出生届をした父親の訛りのせい。村役場の係員も同じ訛りであったから、「シヅエ」が戸籍上では「シツイ」になった。

「ふるさとの訛り懐かし〜」(啄木)ではないが、シツイさんの理容店は筆者の母親の実家がある山あいの隣り集落、栃木県那珂川町谷川（やかわ）にある。かつては大内村谷川だった。役場の助役や農協参事などを長く務めた明治生まれの祖父が、自転車通勤した街道沿いにある。白く乾いたでこぼこ道を、祖父は毎日、生真面目に通い続けた。後年に町会

議員なども務めたから、あるいはシツイさんの店で禿げ頭に残るわずかな後ろ髪などを整えてもらったことがあったかも。

農家の三女に生まれたシツイさんは12歳で奉公に出、14歳で上京した。理容師の修業時代に結婚し、二児に恵まれたが長女が生後の高热で脳性麻痺になり、昭和19（1944）年に出征した夫は帰らぬ人になった。激しくなる空襲から逃れ、生家のある故郷に疎開した直後には、東京で開いていた店が焼けて跡形もなくなった。夫の戦死は、敗戦8年後に「ただの板切れ1枚」が入った白木の箱で知らされた。

「猫いらず」を飲んで親子心中を図ろうとしたシツイさんを押しとどめたのが、小学生の長男だった。正気づいたシツイさんのその後の細腕奮戦記が明るい。「ひるまず・うらやましがらず・あらそわず」に営む「理容 ハコイシ」は笑顔溢れる「浮世床」。「ごきげん暮らし」の知恵を、本書からどうぞ！（山海野 玄）